

大野和士

ブリュッセル・フィル音楽監督就任決定



東京都交響楽団提供/©堀田力丸

ベルギー時間9月29日(水)午前8時(日本時間29日午後3時)大野和士が、2022/23シーズンよりブリュッセル・フィルハーモニックの音楽監督に就任することが発表されました。オーケストラは、「大野和士が再びブリュッセルを選ぶ。あらゆるジャンルで完璧な指揮者」と一報を発表しています。大野和士は、これまで国内外の主要オーケストラ、歌劇場の責任あるポストを歴任。世界中で精力的な活動を展開して参りました。現在は、バルセロナ交響楽団ならびに東京都交響楽団音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督を務めております。

ブリュッセル・フィルは、ヨーロッパにおいて、その実力の高さで注目を集める存在。ステファヌ・ドゥネーヴ退任に伴い、かつてベルギー王立歌劇場(モネ劇場)音楽監督として数々の意欲的公演で世界中に話題を提供し、権威あるオペラアワードにも輝いた大野和士に白羽の矢が立ったということです。かねてより馴染み深いブリュッセルの名門オーケストラの音楽監督の重責を担うこととなった大野和士は、「責任と期待を胸に秘め、改めて新しい時代に立ち向かおうとするフィルハーモニックと私がここに

います」と、その意気込みを語っています。大野和士の今後の活動、そしてブリュッセル・フィルとのコンビネーションに、どうぞ注目ください。

このプレスリリースに関するお問い合わせ

株式会社 AMATI 担当：入山 功一・岡部 雅弥

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-5 アークヒルズエグゼクティブタワーS103

TEL：03-3560-3007 FAX：03-3560-3008 URL：www.amati-tokyo.com

ブリュッセル・フィルハーモニック *Brussels Philharmonic*

ベルギー国立放送協会が1935年に設立した放送オーケストラが前身。2008年、ブリュッセル・フィルハーモニックに改称。同年、鬼才ミシェル・タバシュニクが音楽監督に就任し、ウィーン楽友協会をはじめパリ、ロンドン、ベルリン、ザルツブルグを中心にヨーロッパツアーを定期的に開催。古楽から現代音楽に至って莫大なレパートリーを有し、充実したオーケストラが数多く存在するブリュッセルで、実力ナンバーワンのシンフォニーオーケストラと言われている。

歴代の音楽監督にはアレクサンダー・ラハバリ、フランク・シップウェイ、ヨエル・レヴィらが名を連ね、2015年からはステファヌ・ドゥネーヴが音楽監督を務めている。また、これまでにレナード・バーンスタインをはじめ、ダリウス・ミヨーやベンジャミン・ブリテンを客演指揮者として迎えている。録音も数多く、2010年にタバシュニクが自主レーベル「ブリュッセル・フィルハーモニック・レコーディングス」を立ち上げて以来、ドビュッシー、チャイコフスキー、ストラヴィンスキー等の録音を次々とリリース。またスペインの名門古楽レーベル、グロッサからも古楽指揮者の名匠リチャード・エガーやエルヴェ・ニケによるCDが発表され高く評価された。

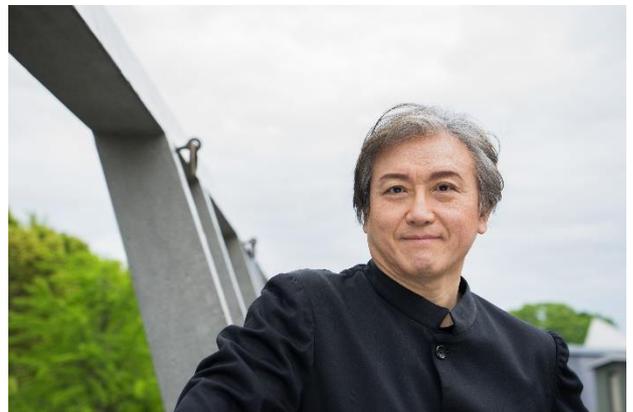
大野 和士 *ONO Kazushi, Conductor*

バルセロナ交響楽団および東京都交響楽団音楽監督、国立劇場オペラ芸術監督。このほど、2022/23 シーズンよりブリュッセル・フィルハーモニックの音楽監督就任が発表された。

1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。これまでザグレブ・フィル音楽監督、都響指揮者、東京フィル常任指揮者（現・桂冠指揮者）、カールスルーエ・バーデン州立劇場音楽総監督、モネ劇場（ベルギー王立歌劇場）音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。ヨーロッパと東京を拠点に、国際的活動を展開している。

フランス批評家大賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。9年間率いたリヨン歌劇場は、国際・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス 2017」を獲得。自身は2017年6月、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受章、またリヨン市からリヨン市特別メダルを授与された。

2019年、大野和士が発案した国際的なオペラ・プロジェクト「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World」の第1弾として『トゥーランドット』を上演。国内3都市の計11公演を自ら指揮して成功に導いた。第2弾『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は、2021年11~12月に新国立劇場で開催予定。2021年は新国立劇場でのワーグナー『ワルキューレ』、ビゼー『カルメン』、渋谷慶一郎『スーパーエンジェル』（世界初演）を指揮、大きな話題を呼んだ。



©Herbie Yamaguchi

大野和士よりメッセージ

1935年に創設されたブリュッセルを拠点とする同楽団は、正式名称をブリュッセル・フィルハーモニックといい、その後に交響楽団、管弦楽団等が付きません。それは、この名前により、前身であるフランダース放送交響楽団の時代に創設された放送合唱団をも傘下に収めるという理由によります。

今でも、ドイツなどには、フィルハーモニック協会、フィルハーモニック・ソサエティという名称の元に、オーケストラと合唱団を抱えている例はよく見られ、この点が私にとっては、レパートリーの観点からもポジションをお引き受けする重要なポイントとなりました。放送オーケストラ、放送合唱団と一緒に存在することで、バロックの宗教曲から私たちの時代の音楽に至るまで、大変幅広いレパートリーをコンサートにおいて、また録音においても演奏をすることができるからです。

また、この放送というツールが大きな比重を占める演奏団体だからこそ、コロナ禍における音楽文化を一般の聴衆、または子供達に様々な形で提供するために、重要な役割を果たし続けていることも私には大きな意味を持っています。

このような時期のアポイントメントは、オーケストラ、合唱団と私とが、この困難な時代を超えて、今後音楽を通してどのような貢献を果たしていくことができるのか、その可能性を大いに引き出してくれると考えています。

ブリュッセル・フィルと改名したのは、私がちょうどモネ劇場を去った2008年からです。モネを辞した際から、このオーケストラからは幾度か客演のお申し出をいただきましたが、今年の1月まで実現しませんでした。しかし、この年月を経たからこそ、またこのような時だからこそ、私が再びブリュッセルでポジションを得るといえるのは、ある意味で運命的なことと感じています。ソノリティーとフレキシビリティを併せ持つオーケストラであると、私はプレスリリースのインタビューで答えたところです。

10月1日には、この1月の初顔合わせには果たせなかった、聴衆を伴う、また特別なディスタンスを取らなくなってからまだ日の浅いオーケストラと、エルガー、ベルク、シューベルトという異なる時代のプログラムを集めたコンサートを指揮します。責任と期待を胸に秘め、改めて新しい時代に立ち向かおうとするフィルハーモニックと私がここにいます。

大野和士

大野和士&ブリュッセル・フィルハーモニック 今後の共演予定**【日時/場所】**

2021年10月1日(金) 20:15 Studio 4, Flagey

2021年10月2日(土) 20:00 Concertgebouw Brugge

【プログラム】

シューベルト:「魔法の竖琴」序曲 ハ長調 D.644

ベルク: ヴァイオリン協奏曲《ある天使の思い出に》 ヴァイオリン: ヴェロニカ・エーベルレ

エルガー: 独創主題による変奏曲《エニグマ》 Op.36